

航空

2023年10月23日



平野ロジスティクス 九州事業強化、精密機器輸送も充実

福岡営業所の田中法雄所長（中央）と二宮智幸所長代理[㊞]

平野ロジスティクスが九州での事業を強化している。2022年7月には福岡営業所を、福岡空港の国際貨物地区の近接地に移転・拡張。事務所棟とトラックヤード、貨物の一時保管倉庫などを一体完備した。空港間の保税転送（OLT）に加えて、半導体製造装置をはじめとする精密機器輸送に対応したオリジナル・トレーラー、空調車を駆使。九州域内、日本全国各地を結ぶネットワークを構築している。益子研一取締役営業本部長は「精密機械の大型化に対応した新型の平ボディ車も開発している。今後、さらに需要が高まると見込まれる精密機器輸送に柔軟・的確に対応する」と強調する。

■福岡営業所を移転・拡張

平野ロジスティクスの九州における中核拠点は、福岡空港の国際貨物地区の近接地にある福岡営業所だ。敷地面積は約2500平方メートル。トラックヤードが十分に確保されており、トレーラーや大型車を含めて車両の発着拠点あるいは駐車スペースとしての機能も万全だ。福岡営業所の車両体制はオリジナル・トレーラーから大型車、4トン車、2トン車、1トン車まで配

備。空調車も含まれ、顧客の需要に柔軟に対応している。

福岡空港や北九州空港、関西空港、中部空港、成田空港、羽田空港といった主要空港との間の保税転送（OLT）に関しても、福岡営業所は九州における拠点として機能。同時に空港搬出入貨物の域内集荷・配送事業も手掛けている。空港間OLTや航空貨物の集荷・配送に関しても、福岡空港の近接地にある立地が大きな強みだ。

九州域内の精密機器輸送への対応も重要な事業となっている。半導体関連産業の集積で注目される熊本をはじめ、ネットワークは九州全体をカバー。日本全国の輸送網に接続する。梱包工場とメーカーの生産拠点間の輸送などにもきめ細かく対応している。空港とともに、港湾への搬出入も目立っているという。

遠隔地との輸送に際しては、陸上輸送に加えて、フェリーやRORO船など海上輸送のニーズも高まっている。トレーラー（台車）部分のみを海上輸送して、到着地でトラクター（ヘッド）で引き取るといった形での物流効率化も可能だ。多くのトレーラーを保有する平野ロジスティクスの強みが活かされている。

■精密機器輸送の新型平ボディ車開発

平野ロジスティクスの車両体制は、トラックは大型車を中心に約100台。さらにオリジナル・トレーラーが加わる。現在のトレーラーの体制は▷大型トラックよりも96インチ仕様のULDを2台多く搭載できる「+2」▷同1台多く搭載できる「+1」▷「+1」に改良を加えて背高貨物などへの対応に柔軟性を持たせた「+1a」▷「+1」に空調機能を施した「+1COOL」▷大型トラックよりもLD3換算で7台多くコンテナを搭載できるとともに複数のパレタイズ貨物を搭載できる「+7」▷「+7」に改良を加えてコンテナを8台多く搭載できる「+8」▷「+7」に空調機能を持たせた「+7COOL」など。

「+1」に空調機能を施した「+1COOL」も投入し、高品質が求められる精密機器輸送や医薬品輸送などに特に力を発揮。航空機エンジンなどの大型貨物を搭載できる平ボディ・トレーラーも配備している。

さらに最新鋭の平ボディ・トレーラーを開発中だ。性能が高度化するにつれて、最新鋭の半導体製造装置をはじめとする精密機器のサイズも大きくなる。こうした貨物に対応する空調コンテナのサイズも大型化する傾向にある。精密機器を複数搭載できる、あるいは大型化した精密機器・空調コンテナの搭載を可能とするサイズのトレーラーの開発を進めている。

フレイターのメインデッキのように厳重に貨物を固縛するシステムも採用するなど、センシ

タイプ貨物の取り扱いに万全の性能を施している。年内の導入を計画しており、半導体製造装置などの精密機器とともに、航空機エンジンなどの大型貨物取扱の利便性も向上するなど、多くのメリットを提供する。



平野ロジスティクスの福岡営業所

Daily Cargoに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.